

◆ 2023 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：NPO法人 ジョイライフさやま

26A-03

代表者：代表理事 内田 貴夫

URL : <https://joylife-sayama.info>

1. 活動が必要とされた状況



入間川の環境の中で多くの生物が生育、生息し、この川で他の生き物と多様な関わりを持つ生物多様性を保全することの大切さは、多くの自然体験の中で森や川が作られていることを知る大きなきっかけとなっています。小さな樹林を守ることで多種多様な生態系を守ることへ繋がる活動を行っています。身近な水環境はどうなっているのか、川の水は汚れているのか、観察や水生生き物による調査を交えて活動していきます。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）



手入れ不足で荒廃する水辺の樹林は、外来植物が繁茂し、既存の生態系に大きな負荷を与える環境となっています。最近ではアレチウリが繁茂し、在来植物に絡みつき、死滅に追い込んでいます。種ができる前に伐根しながら刈り取っていきます。私たちにもできる環境保全の取り組みにより理解と知識を深めることが大切だと感じています。

3. 活動の成果



持続可能な社会を支える生物多様性保全は、動植物の生息、生育が必要であり、確実に意味ある活動と感じています。死角をなくし、見通しを良くすることで負担をかける不法投棄ごみの減量にもつながり、私たちの取り組むべき環境保全の一環となっています。綺麗な環境を維持していくためにも不法投棄が行われない景観を維持していくことが必要ではないでしょうか。水辺周辺エリアが綺麗になり、環境の向上や地域の治安が良くなることも効果が期待できると思います。

4. 今後に残された課題



自然体験に参加しながら様々な人と知り合い、ごみの深い学びや環境の知識を学ぶ機会に出会うことで、SDGsに繋がり、作る責任・使う責任に当たる活動となっていると感じています。ただ、岸辺のごみは拾うことで回収できますが、川底に堆積したごみは回収が困難です。ごみの処理は責任の所在が曖昧になるため、市や県の決まりを作り、解決のために、分野を超えたルールが必要と感じています。